

みんなが安心できる「心の教育充実プロジェクト」の実践

質の高い学校教育の推進—子供たちの安心・安全の確保—

◆ 所属・提案者（◎代表者）

戸田市立笹目小学校

◎黒崎 正彦・仲尾次 明美・田口 莉沙・片桐 拓海

ねらい

発達障害を含め、いろいろな課題を持つ児童が増えてきている。学校・家庭生活で「困っている児童」の背景には、「困っている保護者」がいる。児童一人一人が学校生活を安心して送れるよう、児童・保護者・学校・地域が手を携えながら、児童の成長を支援することをねらいとした生徒指導、教育相談活動の取組である。

- ①児童や保護者、学校が抱える様々な問題をチームで解決し、児童の心の教育を充実させ、自己肯定感を育む。
- ②家庭、地域社会等の連携を密にし、一体となって児童の健全育成を図る。

実践内容

1 プロジェクト構成の工夫

「心の教育支援プロジェクト」は、これまでの生徒指導委員会の構成メンバーを拡大するところから始めた。生徒指導主任と各学年から構成していた委員会に、養護教諭、学校教育相談主任、児童虐待対応キーパーソン、特別支援教育コーディネーター、道徳教育推進教師、人権教育主任を加え、児童を取り巻く様々な問題にチームとして対応できる体制を整備し、支援する。

2 子供との教育相談 **資料 A—①、資料 A—②**

- 第1回 平成27年6月8日（月）～6月26日（金）までの3週間
- 第2回 平成27年11月9日（月）～11月27日（金）までの3週間
- 方法…原則として、担任教師と児童の1対1、一人当たり3～5分程度
- 担任の役割

- ・1回目は児童の様子と心配や不安などの把握、2回目は児童のその後の見届けを中心に行う。

- ・集めた情報は必要に応じて次のように活用する。

- ア…学年担任に知らせる。

- イ…心の教育充実プロジェクト推進委員会に知らせる。（管理職へ）

- ウ…1回目の情報は、7月の保護者との個人面談、教育相談等、保護者との面談に情報として生かしていく。

○資料 A—①
教育相談時の担任の資料
「児童と話をするとき」
○資料 A—②
「児童との教育相談」
情報共有シート

3 保護者との教育相談 **資料 B—①**

保護者との教育相談体制を担当だけでなく、学年の教員、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、その他相談したい相手を選択できるように家庭に配布する手紙を工夫した。また、教育相談を充実させるために設定日を増やした。また「教育相談」という言葉が、保護者にとって構えてしまう言葉になっているとのことからネーミングの検討などをし、実践している。

4 ふわふわいっばいの環境づくり

① ふわふわルームの設置 **資料 C—①**

個別の対応が必要な場合に利用する。例えば、教員と児童が少人数または一人で話をするときや、児童が固まってしまふ、暴れてしまった、泣き続けているなどの状態になり、落ち着いた環境でクールダウンが必要だと思われるときなどである。

② ふわふわスリッパの実践

原寸大のスリッパの写真をトイレの入口にはり、スリッパの置き方の手本とする。「次の人のことを考えて」スリッパを利用させることで、思いやりの気持ちを育む実践である。

実践時期・期間

年間を通じて

○資料 B—①
「保護者との教育相談」
～保護者への手紙～

○資料 C—①、資料 C—②
「ふわふわルーム」
「ふわふわスリッパ」

セールスポイント

児童一人一人の理解が深まり、児童のよい姿や困っていることを子供・保護者・学校が全体で共有し、対応することができ、子供たちも安心して学校に登校することができている。

他校で導入するポイント

- ・子供との教育相談は、アンケートによる聞き取りよりも時間を要するが、相談の期間を3週間と長めに設定することで、担任の負担も軽減される。予防的な効果が高いので、事後の問題行動対応時間をかけるよりも価値がある。
- ・保護者との教育相談実施の受け入れ体制を広げるための校内体制の整備は、職員全体で意義を理解しながら進め、保護者へは配布する手紙や懇談会等で知らせていくとよい。
- ・子供たちの確かな学力の育成の基盤には、児童一人一人が安心して落ち着いて学べる環境づくりが基本であり、実践導入として取り組みやすい。



実践の成果や課題

- 1 プロジェクト構成の工夫
児童を取り巻く様々な問題にチームとして対応できる体制を整備したことで、職員全体での児童理解が深まるとともに、児童の抱える問題に対し早期発見・早期対応が可能になった。
- 2 子供との教育相談
子供は担任と1対1で話し合う機会があることで、普段の会話だけでは話づらいことや悩みなどを打ち明ける機会になり、担任も子供たちの状況を把握することにつながった。保護者との個人面談に子供たちから聞き取ったことを伝えることで保護者の安心感につながり、信頼関係づくりや課題共有をすることができた。
- 3 保護者との教育相談
担任以外の相談を申し込む保護者もいる。受け入れ体制を大きくしたことの成果と考えられる。
- 4 ふわふわいっぱい環境づくり
 - (1) ふわふわルームの設置
泣き続けてしまったり、興奮して落ち着きをなくしてしまった児童などの居場所が確保されることで、落ち着きを取り戻して話をしたり、授業に戻ったりすることができた。
 - (2) ふわふわスリッパの実践
そろっていないときは教職員も率先して、スリッパを整えることで、自分が使用したとき以外でもそろえる児童の姿も見られるようになり、児童のよい姿をほめることにつながっている。

- ・子供との教育相談は、児童の頑張りを多めに褒め、なんでも話しやすい雰囲気大切に。個人面談で児童から聞き取ったことを必ず保護者に伝える。
- ・保護者との教育相談は、家庭訪問や個人面談等の機会を利用して、4月から積極的に情報提供する。
- ・ほめることを発見しやすい環境。ほめることができる場の設定をする。※問題や悩みは、児童・保護者・教員一人に抱え込ませない。

失敗しないための方策



こうすればより高い効果が得られる方策など

- ・教育相談で得た情報だけでなく、困っている児童の強み等も共有できると、支援策の幅も広がる。
- ・継続的に校内支援ができるよう、方針や支援策等、具体的に支援したことなど、次年度につなげた方がよいことは、校内の支援シートを活用することで、学校や教師への信頼も高まり、児童や保護者の安心につながる。

外部有識者からのコメント

組織的・計画的に教育相談が組まれている。アンケートは、子供たちの実態や内面を探る一つの方法だが、アンケートだとやはり表面的なところでしか回答できないので、面談の方が子供たちや保護者一人一人の本音も聞けるのでいいと思う。なかなか時間を確保するのは難しいが、面談の方が効果は高いであろう。面談相手も選べるなど、きめ細かい対応もよい。保護者を巻き込んだ、トータルの形での取組は素晴らしい。しかし、組織にスクールカウンセラーが入っていないので、今後様々な地域資源の活用で足場が安定するよう検討が必要であろう。また授業改善の視点もつなげてほしい。